



生命科学における鏡の中の世界

写真の Asp, Ala, Ser はそれぞれ、アスパラギン酸、アラニン、セリンの三文字表記。

老川 典夫

『鏡の国のアリス』は1871年、『不思議の国のアリス』の続編としてルイス・キャロルによって書かれた児童文学である。この作品の中では、対象や時間の逆転などを含めた多くの鏡のテーマがあり、「鏡像」がその主題である。一般にはあまり知られていないが、実は生命科学にも鏡の中の世界がある。

私たちのからだの中には、10万種類ものさまざまなタンパク質が存在している。これらのタンパク質は、からだのもとになったり、からだの外から中から情報を伝える働きをしたり、からだの中での運ぶ役割をしたり、からだの中で必要な物質を作ったり、からだを病気から守ったりするなど、私たちの生命維持に不可欠な大切な機能を持っている。これらのタンパク質は、いずれも約20種類のアミノ酸がネックレスのようなチェーン状につながったものである。一般にアミノ酸には、これらのタンパク質を構成している「L型」と、その「鏡像」である「D型」がある。これまで、タンパク質中や自然界に多量に存在するL型が天然型、D型は非天然型であり微生物以外の生物には不必要なもの、と考えられてきた。

しかし近年、分析技術の著しい発達によって、これまで困難であったL型アミノ酸とその鏡像異性体であるD型アミノ酸の分離・定量が可能になった。その結果、さまざまな「生命科学における鏡の中の世界」が見えてき

た。たとえば、ヒトの脳内には、D-セリンが存在し、神経伝達物質として機能していることが明らかにされている。また眼の病気である白内障は、眼のレンズ中のα-クリスタリンというタンパク質のL-アスパラギン酸が、D-アスパラギン酸に加齢にともない変化していくことによって引き起こされることが明らかにされている。さらに私たちは、さまざまな食品中に種々のD型のアミノ酸が存在していることを明らかにした。分析したすべての野菜や果物の中には、D-アラニンが含まれており、その他D-アスパラギン酸、D-セリン、D-グルタミン酸、D-スレオニン、D-チロシン、D-メチオニン、D-フェニルアラニン、D-ロイシンなどの種々のD型アミノ酸が広く存在していることを明らかにした。興味深いことに、L型とD型では、同じアミノ酸でも呈味が全く異なっているということである。たとえば、L-グルタミン酸は旨み化学調味料として有名であるが、D-グルタミン酸にはほとんど味がなく、またその他のD型アミノ酸はL型に比べて全般に甘味が強いことが知られている。

現在、私たちは、食品中のD型アミノ酸に着目し、新規機能性食品の開発の研究を行っている。「生命科学における鏡の中の世界」は、『鏡の国のアリス』同様、まだまだ不思議で満ち溢れている。

(化学生命工学部教授)

HEADLINE

3面 教育改革支援プログラム等に採択

平成二十年度文部科学省教育改革支援プログラムに採択された五件うち共同申請一件と私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された六件について紹介する。

4・5面 関西大学 安全・安心の取り組み

本学では、九月に大規模な地震避難訓練を行うなど、安全・安心に向けた諸活動を展開している。今回は、被災時の備えの大切さについて特集する。

特集

8面 徹底取材 学園祭2008

関大生は学園祭についてどう思っているのか。その歴史や、意識調査の実施など、秋学期から活動を開始した学生広報スタッフが多面的に取材した。

特集

2面 秋学期客員教授が決定

3面 臨床心理専門職大学院が設置認可

6面 平成20年度就職状況

7面 ビアサポートの活動拠点を設置



日本人のノーベル賞受賞者が今年は一挙に四人も誕生した(現米国籍含)。ノーベル物理学賞、化学賞といずれも日本人の活躍には心躍るものがある▼ところが昨今は、彼らが研究の根幹を築き上げた頃と違って、理科離れが言われている。このような状況下で、彼らのように世界的な研究成果をあげるような研究者が今後出てくるのだろうか。頂点を極めるような研究というのは、幅広い視野を持つ環境の中からしか生まれてこない。とすれば、なぜ理科離れが起こっているのかを今後真剣に検討する必要がある▼私は高校二年生の時に文系に転向(文転)したが、数学は大好きだった。大学は文系学部に入り、大学院に進んだときに、もう少し数学的素養を身に付けるように指導教授から言われた。文系とは違って、至る分野で数学的素養は必要となっているのだ▼経済は数学が要るが商は要らない」といった話が囁かれることもあるが、ある意味ではこれは間違っている。数学が不要な社会科学分野などないといっている。たとえ将来数学を使う仕事に就かなくても、学生時代に培った論理的思考は大きな財産となるはずだ。(良永 康平)

戦略的な研究基盤の形成をめざす 6 件の研究プロジェクトがスタート

このたび、文部科学省が推進する私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に、本学から申請した六件の研究プロジェクト(下表参照)が選定を受けた。この事業は、昨年度までの私立大学学術研究高度化推進事業(ハイテック・リサーチ)や学術フロンティア、産学連携研究、オープン・リサーチなどへいくつもの略称の後継制度として平成二十年頃から始まったものである。経営戦略や研究戦略に根ざし、大学の特色を活かした意欲的なプロジェクトとしての研究活動の推進と成果の発揮が期待されている。

募集は、「研究拠点を形成する研究」「大学の特色を活かした研究」「地域に根ざした研究」の三類型で行われ、本学が選定を受けた六件は、いずれも研究拠点を形成する研究として申請したものである。六件の選定は全大学におけるこれまで選定件数の累計でも、全国第三位の実績を誇る。六件の総事業費は約七億八千万円が見込まれ、その約二分の一が国から優先的に補助される。(研究推進部)

審査分野	研究組織名 (母体となる研究科または研究所)	研究代表者	研究プロジェクト名
人文・社会系	マイノリティ研究センター (法学研究所)	政策創造学部 延夫 孝忠 教授	マイノリティと法—21世紀における「国家と社会」のタイプ
	文化財保存修復研究拠点 (文学研究科・工学研究科)	文学研究科 浩 教授	文化財の保存修復、技術開発と活用に関する研究—エジプトを中心に—
理工・情報系	機能性天然素材発掘・実用化ユニット (先端科学技術推進機構)	環境都市工学部 山本 秀樹 教授	地域産業ニーズ・ニーズに応えた高付加価値天然素材の実用化研究
	健康科学研究ユニット (先端科学技術推進機構)	工学研究科 土戸 哲明 教授	環境アポトジェンを含む環境汚染化学物質の作用機序の解明と化学生態学的防除法の開発研究
生物・医歯系	総合情報学研究センター (総合情報学研究科)	総合情報学研究科 堀 雅洋 教授	セキユアライフ創出のための安全な知能ネットワークに関する研究
	ナノ・マイクロフィジウム研究ユニット (先端科学技術推進機構)	システム理工学部 大場 謙吉 教授	組織・臓器の実形態の解明と生体現象・医療機器の開発に用いた人工臓器

(注) 研究代表者の所属は、文部科学省へ構想調査を提出した際の表記。研究期間は、ナノ・マイクロフィジウム研究ユニットのみ3年間、ほかは5年間。

文部科学省G P など

文部科学省が募集した平成20年度教育改革支援プログラム(うち、本学から申請1件)が採択された。

教育改革支援プログラムに 5 件採択

「産学連携による実践型人材育成事業—サービスマン・インベシジョン人材育成」に採択
(四十件の申請のうち七件が採択)

「取組内容」 高度な統計学、数学、アーマインニングに精通した人材を育成する教育プログラムの開発を目的とする。

「取組内容」 再設計を行うコンサルティング能力を持つ人材を育成する教育プログラムの開発を目的とする。

英語に強いグローバルリーダーの育成

「取組内容」 産学官連携、高大連携、海外連携を通じて、英語力とプロジェクト能力を同時に強化することによって、グローバルなリーダーを育成することを目指す。この目的の下、RUBI(英語)、「COE」(英語)、「BEST」(英語)、「P」(英語)、「E」(英語)、「I」(英語)の四つの教育プログラムを学部事業および講義科目として実施する。

共同申請で1件の採択

文部科学省の平成二十年「戦略的大学連携支援事業」の中で、大阪電気通信大学、奈良先端科学技術大学院大学と連携して申請した「広域学連携」が採択された。G P 支援として採択された。

参加連携型の大学院教育による社会創造

「取組内容」 関西大学は、しつこく、物事に果敢に挑戦し、行動できる力を指す。動力・あふれる人材の育成を「情報手段を用いて」をめざしている。「移動 社会を創造する力」、すなわち「情報社会に関する多様な力」として、深い思慮に依拠し、

「取組内容」 留学前と留学後の研修も包含し、関西大学の「学の実用化」を「学理と実際の調和」を具現する三つの活動、すなわち「国際化」を推進する。

ICTを活用した教育の国際化プログラム

「取組内容」 留学前と留学後の研修も包含し、関西大学の「学の実用化」を「学理と実際の調和」を具現する三つの活動、すなわち「国際化」を推進する。

社会連携プロジェクト「関西大学カイザープロジェクト」を設立

総合情報部の田中成典教授は、建設業界を対象とした「時間管理を考慮した汎用3次元CADエンジン」の研究開発を目的とし、社会連携プロジェクト「関西大学カイザープロジェクト」を設立した。

本プロジェクトは、平成十八年十月に政府が設置した「建設業振興」を目的とする。建設業界において、現状、建設業界において、

臨床心理専門職大学院 12月、2月に入試実施

平成二十年四月の開設に向け、臨床心理専門職大学院に続き三番目の専門職大学院の誕生となる。この認可を受けて、ウェブサイトの開設やパンフレットの作成を行うこととして、十一月十六日には財団法人日本臨床心理士資格認定協会の大塚孝孝理事を招き、臨床心理シンポジウムを開催し、各種の広報活動を展開している。また、入試説明会の実施や入試要項の配布が始まり、十一月七日の学内および一般入試、二月二十一日の一般入試を行うことになっている。

学位取得

- 学位授与式が9月18日に千里山キャンパス百周年記念会館で行われ、次の11氏に関西大学から学位が授与された。
- 被授与者の学位および博士論文名は次のとおり。
- 【課程博士 7 人】
- 小澤 祥子/博士(文学)「中世フランスのファルスと狂言の比較」
 - 藤田 益子/博士(文学)「『見女英雄伝』の言語に関する研究」
 - 奥 善充/博士(経済学)「少子高齢化経済における公共政策のあり方」
 - 石塚 丈晴/博士(情報学)「校外学習活動における携帯情報端末の活用に関する研究」
 - 西出 亮/博士(情報学)「VIRTUAL COLLABORATIVE SPACE AND ITS EXTENSIVE APPLICATIONS」
 - 織田 朝美/博士(情報学)「表情の認知的・感情的情報処理に関する研究」
 - 築地 光雄/博士(工学)「光学フィルム用弾性定数測定システムの開発」
- 【論文博士 4 人】
- 松村 敏彦/博士(文学)「新編 流浪の作家ジョゼフ・コラッド」
 - 山田 正雄/博士(文学)「Henry David Thoreau の実践的な生き方と自己実現」
 - 塩 卓悟/博士(文学)「唐宋肉食文化史の研究」
 - 陳 小 法/博士(文学)「明代中日文化交流史の研究」

トヨタ財団の助成事業に 2 件が採択

「人間のより一層の幸せをめぐり、将来の福祉社会の発展に資すること」を設立理念としたトヨタ財団から、次の二件の研究および企画助成を受けることになった。なお、助成期間は

いずれも二年間である。公募プログラム名 アジア周縁部における伝文書 代表者 吾妻 重一(文学部教授)

「グローバルCOE文化交渉学教育研究拠点事業推進担当」 企画題目 スターダム・フエ都城周辺集落の伝統民間文書とその文化的脈絡の包括的収集と保存

公募プログラムの紹介

公募プログラム名 アジア隣国ネットワークプログラム プロジェクトリーダー 喜多 千幸(総合情報学部准教授)

情報基盤技術を支える教育現場の多言語利用環境における多文化共生社会の実現のためのネットワークづくり (研究推進部)

種目	合格者数	種目	合格者数
アイススケート	1人	重量挙げ	5人
アイスホッケー	5人	水上競技	9人
アーチェリー	2人	スキー競技	1人
アメリカンフットボール	7人	ソフトテニス	5人
空手道	8人	卓球	4人
器械体操	1人	テニス	4人
弓道	2人	なぎなた	2人
剣道	3人	馬術	4人
日本拳法	4人	バドミントン	2人
サッカー	18人	バレーボール	1人
柔道	8人	合計	166人

2009年度 スポーツ・フロンティア入試

9月募集の結果について

大会や専攻教育で構成される広域ブロック大会の成績上位者が年々多くなっている。また、近畿(府四県以外)からの出願が全体の四八・七%を占めたことからも、S F 入試が全国型の入試として定着したということがいえるだろう。

なお、二〇〇九年度から、オンラインや世界選手権大会、国際レベルでの活躍が期待される優秀な学生を対象に、新たな「一ヶ月募集」を実施することになったが、志願者が持つ競技実績は非常に高く、全国(入試センター)

関西大学 安全・安心の 取り組み

本学では非常時における学園の危機管理体制の確立を目的に、昨年7月、「安全宣言学園構築プロジェクト」を発足させた。同プロジェクトでは、学内における防犯・災害等の対策の整備と体制の確立、危機管理マニュアルの整備、安全関係シンポジウム・講演会の開催、地元自治体・警察署・消防署との協力体制の確立など、「安全・安心」づくりに向けた諸活動を展開している。

また、本年1月には「学校法人関西大学危機管理規程」を制定、6月には「危機管理基本マニュアル」や個別対応マニュアルを作成した(一部作成中)。9月29日には、危機事象のなかでも特に緊急性の高い「地震対応」を取り上げ、マニュアルの実効性を検証するとともに、実際の災害に備えるため、学生・教職員約8,000人が参加し、大規模な地震避難訓練を行った。

当日は、授業中にマグニチュード7.6の上町断層直下型地震が発生したと想定、マニュアルに基づいて地震対策本部が立ち上げられた。そして、同対策本部には、①情報収集班、②救護・調達班、③学生対応班、④広報班の4つのタスクフォースが置かれ、初期対応訓練を行った。

また、学生は、①発生直後の回避行動、②教職員の誘導による7カ所の指定避難場所への移動、③安否確認シートの質問事項への回答とその提出、④学生ボランティアの募集とボランティア活動の着手の4つの内容の避難訓練を行った。

本特集では、避難マップを掲載し、キャンパス内で被災した場合の措置や緊急時のボランティアセンターの取り組みを紹介しているの、学生諸君においては大いに役立ててほしいところである。



学生声

避難訓練を終えて

「ここには訓練に参加した学生の『安否確認シート』に書かれた避難訓練への意見や要望の一部を紹介したい。」

「避難経路を覚える上で、やる意味はある。(工女)」

「今日のようにダラダラした学生が多いと本当の地震の時に全く役に立たない。(社女)」

「避難場所が狭くて、学生が入りきらなかった。(経男)」

「訓練の規模が大きすぎて、全体で何が行われているのかわかりづらい。(院男)」

「避難だけでなく、被災時に何をすべきかなどを教えてもらえるような講習会をやしてほしい。(法男)」

「予告なしに避難訓練を行った方が効果的ではないか。(商女)」

「授業に支障のないようにしてほしい。(院男)」

「夜や冬など、条件の厳しい時にも訓練を行ってほしい。(法女)」

「(訓練日には)避けて欲しい。(政策女)」

「(訓練日には)避けて欲しい。(化男)」

「年一回全員でやって欲しい。(化男)」



切り取ってお使いください。

キャンパス内で被災したら [サバイバル必携から抜粋]

大地震発生時には、大学に対策本部が設置される。
「自分は大丈夫」と過信せず、安全確保のため、必ず本部の指示に従うこと。

地震発生時初期動作——緊急地震速報時と同様の動作

初動行動のポイント▶安全確保・冷静に状況把握

- Q1 授業中はどうするの?**
- A1 頭部を保護し、できるだけ机など丈夫なものの下に入って身を伏せる。現場の教職員の指示に従い、何も確認しないまま教室外へは出ない。
- Q2 屋外にいるときは?**
- A2 カバンや着衣で頭部を保護し、ガラス飛散から身を守るため建物から離れて避難場所まで避難する。【ガラス飛散範囲:建物高さの約1/2】

揺れがおさまってから行動

1. 避難指示が出てから、走らず落ち着いた段階を使って避難する。
2. 避難行動中も余震のある可能性が高いため、十分注意して行動する。
3. 避難場所へ着いたら、家族からの問い合わせに対応するためケガの有無、今後の予定等について安否確認シートを記入する。
4. ケガが無く、冷静に行動できる人は、できるときボランティアに参加する。

家族との連絡——第1順位——

災害用伝言板が唯一の通信手段と考え、日頃から使い方を覚えよう!!

家族間で電話会社が変わっても利用可能です

【 docomo [iモード] 】 iMenu
【 au [Eweb] 】 トップメニュー
【 SoftBank [Yahoo!ケータイ] 】 トップメニュー
【 WILLCOM [Hi!LINK] 】 トップメニュー

災害用伝言板体験デー
毎月1日・正月3日
防災週間: 8/30~9/5
防災ボランティア週間: 1/15~1/21

家族との連絡——第2順位——

災害用伝言ダイヤルの使い方

171をダイヤル
【音声ガイド】 [1⇒録音 2⇒再生]
【音声ガイド】 被災地の方はご自宅の電話番号、または連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。被災地以外の方は、連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

伝言録音時間: 1伝言あたり30秒以内
伝言保存期間: 録音してから48時間

ここをブックマーク!
「災害用伝言ダイヤル インターネット情報」 <http://www.ntt-west.co.jp/dengon/>

帰宅について

- ・必ず徒歩で帰宅すること。
- ・歩速毎時2.5Kmで計算し、10Kmは4時間を要する。車載では10Kmが限度。
- ・明るいうちに自宅到着できる者のみ帰宅すること。
- ・明るいうちに自宅到着不可の者は避難所で泊まり、翌朝帰宅すること。
- ・余震がおさまってから帰宅すること。(ガラスの雨)
- ・同一方面は集団帰宅すること。
- ・幹線道路を使い帰宅すること。

ボランティアセンターの取り組み

被災者支援や防災について啓発

ボランティアセンターは、これまで大阪府との連携事業として防災キャンペーン(炊出し訓練など)や神崎川における防災船着場活用訓練への参加、災害図上訓練DIG(参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練)などを行ってきた。また、災害被災者支援活動として、昨年10月の新潟県中越沖地震、今年5月のミャンマーサイクロン災害・中国四川省大地震、そして6月の岩手・宮城内陸地震の被災者に対する募金活動を行ってきた。

われわれは、いつ、どこで起こるかわからない災害について、自分自身の安全確保を第一に考えるとともに、救助や復旧など自分たちができることに日頃から目を向けることが必要である。そのために当センターは、災害時のボランティア募集情報の提供や防災に関する啓発行事(12月開催)を予定している。一人ひとりが他人事ではないという意識を持ち、訓練や行事に参加することで防災意識を高めてほしい。

(ボランティアセンター)



高槻新キャンパスに 社会安全学部開設予定!

本特集で取り上げた地震をはじめとする自然災害や事故・事件の多発を背景に、安全で安心な社会システムの構築に対する需要が高まっている。本学では、このような社会的ニーズに応えるため、平成22年4月に社会安全学部および大学院社会安全学研究所を高槻新キャンパスに開設する予定である。

この新しい学部では、事故防止と安全、防災・減災、危機管理に関する分野について、「人文・社会科学」「自然科学」の両面から複数領域の知見・技術を学びつつ、そ

れらを融合・発展させることにより、安全・安心な社会システムをデザインできる能力を備えた人材の育成を目的としている。

また、高槻新キャンパスでは、グラウンドや体育館を災害時の緊急避難場所として開放し、非常用食糧・毛布などを備蓄する災害用備蓄倉庫を設置するとともに、災害時の防災センターとしての機能を有する。さらに、防災・消火訓練、救命体験、安全のための学習など市民参加型啓発行事も実施する予定である。

専門家へ聞く 上町断層直下型地震発生の 可能性とその被害 楠見 晴重

関西大学の立地において、最も危険な震源断層は直下型地震となる上町断層帯である。上町断層帯は大阪平野に位置し、豊中市、吹田市から大阪市内直下を通り、岸和田市まで約42km続く活断層帯である。千里山キャンパスからは西へ最短約1.6kmの所に南北に位置している。

文部科学省地震調査研究推進本部による「上町断層帯の長期評価」によれば、これまでの調査結果より上町断層帯の最新活動は約9,000年前であり、平均活動間隔は8,000年とされている。本断層帯は、今後30年以内の地震発生確率は2~3%と、わが国の主な活断層では、地震発生の可能性が「やや高い」グループとなっている。

また、高槻新キャンパスでは、グラウンドや体育館を災害時の緊急避難場所として開放し、非常用食糧・毛布などを備蓄する災害用備蓄倉庫を設置するとともに、災害時の防災センターとしての機能を有する。さらに、防災・消火訓練、救命体験、安全のための学習など市民参加型啓発行事も実施する予定である。

上町断層帯の直前の値、2~80%を上回っている。これらの評価からは、上町断層帯は近々に活動してもおかしなくない断層帯と考えられる。また断層帯全体が1つの区間として活動した場合の地震規模は、マグニチュード7.5、断層近傍の地表は、東側が西側に対して約3m上昇すると推定されている。また大阪、豊中、吹田市では広い範囲で震度7の地点が分布し、建物全壊・全焼88万棟、死者約4万2,000人と阪神・淡路大震災の数倍の被害が想定されている。

本学は安全・安心の観点から学内の古い建物の耐震補強を急ぐ必要があり、学生諸君は地震に対する危機意識を持ち、上町断層帯の評価は、いざという時に對する備えが必要な発生確率であることを十分認識してほしい。

(環境都市工学部教授)



関大通信 第357号

平成20年(2008年)11月28日
大阪府吹田市山手町3-3-35
http://www.kansai-u.ac.jp/
次号は1月8日発行の予定です

徹底取材
学園祭2008

10月31日から11月3日の4日間にわたって、秋の大イベント「統一学園祭」が行われた。今年のテーマは「関祭 LOVERS」。

というわけで、私たち学生広報スタッフも「愛を込めて」、学園祭を多面的に徹底取材。当日の様子はもちろん、学園祭実行委員による裏話、在学生のみなさんの意識アンケート、関西大学学園祭の歴史に至るまで、盛りだくさんの内容でお届けする。



来場者の声

~150人にインタビュー~

「関大はとて広い。うちの大学とは違いますね」

大学生・男性

「孫の大学を見に来ました。白玉を食べたけどおいしかったね」

一般市民・女性

「卒業以来31年ぶりの関大、建物がおしゃれになっている」

卒業生・女性

「ジャズを聴きに来るのが毎年恒例です」

一般市民・女性

「落語目当てできました。関大は落語が有名だからね」

一般市民・男性

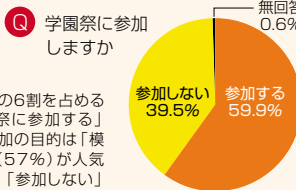
「焼き鳥に驚いた。エジプトでは見られないから」

留学生・女性

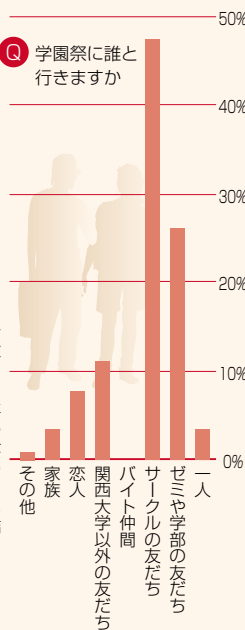


学園祭 アンケート

10月20日から24日まで、在学生を対象にインフォメーションシステム上で統一学園祭についてのアンケートを実施し、約350人の回答を得た。



全体の6割を占める「学園祭に参加する」派の参加目的は「模擬店」(57%)が人気を示し、「参加しない」派の一番の理由は、「つまらない(興味がない)」(29%)であった。「誰と行きますか?」の問いには、ゼミやサークルの友だちが多数を占めるが、「1人」の3%も見逃せない。



「ステージ企画で気になるもの」では、「K.U.Rock Fever 6th」(36%)が1位を獲得。学生が興味のある恋愛や音楽をテーマにした企画の中でも、この企画はプロの審査員に「関大の音楽No.1」を審査してもらったとあって、関心が高かったのだろう。講演企画は、すべて「お笑い」。そのうち、「気になるものは?」の問いに、人気若手芸人たちが集結する他の企画をおさえ、ベテラン「鶴瓶の一人喋り」(30%)への関心度が高かった。また、今年の目玉、mihimaru G Tのライブに関して楽しみな曲は何かを尋ねたところ、やはり大ヒットナンバー「気分上々↑↑」が45%を占めた。

実行委員に聞きました

学園祭直前準備の忙しい最中、実行委員(常任委員会委員長松本さん、ライブ局長藤本さん、ライブ局長員林さん・小川さん)にインタビューした。

関西最大級の学園祭 「みんなに愛されたい」という気持ちで、ターゲットは若者男女。自分たちだけの満足ではなく、来場者に喜んでほしい。関西最大級の1万人強を動員するビッグイベント。前売り制のライブ公演が魅力でもあるが、一般のお客さんにも楽しんでもらえる工夫や配慮が多くある。
人・環境への愛 学園祭実行委員会の任務は、ただ来場者を楽しませるだけではない。愛されるために愛する。このことを惜しまない取り組みとして、歩きタバコを徹廃すべく呼びかけを行っている。また規模からしても、「11」の問題は懸念をせざるを得ない。「11」の最終的な別名まで彼らが抱えているのだ。
学園祭の裏事情 関大だからというフィーリストの出演依頼も容易ではない。その鍵を握るのは、半年に渡る交渉と「連日、やっとの思いで承諾を得られなくても電話の度に断りの電話ではないかと怯えてしまうのが実情。学園祭を目前に控えたライブ局はまたたくまに気がたぎりと終わりはしじつに願ったのである。
実行委員の趣味 学園祭実行委員は学園祭を通じ、実に濃い学生生活を送る。共同作業の中で削り上げてきたものは学園祭だけでなく、学部や学年を超えた熱い仲間たちとのつながりだ。本番を無事終えれば、涙を流し同じ気持ちを共有できる仲間である。

今年のおもしろ企画ピックアップ

「今年もおもしろ企画」を毎年開催。
事務職員が開いた模擬店。



第三学舎を舞台とした体感型「アトラクション」マヤク。



統一学園祭が開かれるまでの道のり

今年で31回目を迎える統一学園祭。この「統一」という言葉にも歴史がある。大正11年の大学昇格に伴い、千里山キャンパスに建設していたグラウンドとクラブハウスが15年に完成。これを記念して、初めての大学祭と同時に運動会や仮装行列などのイベントが行われた。以降、多数の地元住民などの参加もあり続いていた学園祭だが、昭和16年の太平洋戦争の影響で数年間中止に。終戦後、21年に再開、36年には千里祭へと名前を変えて続いていく。しかし、学園紛争で44年から再び中断される。その後、49年に開催された経済学部の学部祭を皮切りに、各学部祭が始まり、シンポジウムや講演会などの企画が持たれ、模擬店数も増加していくことになる。52年には合同祭連絡会議が組織され、合同祭が実行された。そして、6つの学部の合同祭を前進させ、53年にサークルをもまとめた全学的な「統一学園祭」がスタートすることになる。

みなさんご存知のとおり、今年の学園祭テーマは「関祭 LOVERS」であった。こんなに愛のあふれた学園祭、みなさんもこのテーマを実感できたのではないだろうか。

関西最大級の学園祭というだけあって全開催日とも人が多く、大変にぎやかな印象を受けた。来場者は、関大生にとどまらず、卒業生、家族連れや近隣の人、市外からなど多様であり、純粋に学園祭を楽しむことを目的にした人が目立つ。また学園祭実行委員会の思いは、学園祭を満喫するひとりの笑顔を見るたびに

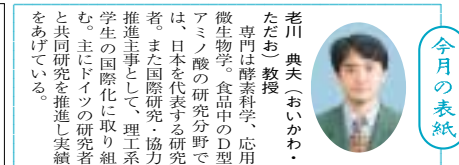
のすと伝わっていることがうかがえた。一方で、「学術分野の発表が少ない」「子どもが楽しめるイベントがもっとあれば」などの声も聞かれ、課題を残す部分もあるようだ。毎年進化を遂げている学園祭、来年はどのような姿を見せてくれるのだろうか。期待は大きい。

取材:学生広報スタッフ(50音順) 一文字真弓(社3)、上塚太真(政策2)、小森まゆこ(社4)、佐納 愛(商2)、菅原直亮(情1)、田輝之(法4)、高野公美子(文3)、高野早智(文3)、田沢和彦(情2)、出口恵理(社3)、富田 和(法3)、西岡沙紀(政策2)、服部夏奈(情3)、平岡菜穂(情3)、深見さやか(法4)、松永有紗佳(政策2)

1922(大正11)
1978(昭和53)
2008(平成20)

私事ながら、毎年誕生日を迎えるたびに阪神・淡路大震災の爪あとに心を痛めている。大都市を襲う災害は、予想を超えるさまざまな被害を物理的、精神的に残していく。『震災は忘れたい頃にやってくる』と言われるが、大都市の被害を拡大させるものに「入災」がある。それゆえ、社会の安全・安心を学際的に探求する社会安全学部および大学院社会安全学研究科の開設(平成二十二年四月予定)にかけられる期待は大きい。また、学園祭に対しては、高揚した時期であるが、本学学生も大規模な地震難訓練を経験した。危機管理の思考や実践は災害のみに対応するのではなく、学生生活、そして人生設計すべてに活かしたい。(佐々木 保幸)

今月の表紙
老川 典夫(おいかわ・たろお)教授
専門は酵素科学、応用微生物学。食品中のD型アミノ酸の研究分野では、日本を代表する研究者。また国際研究・協力推進主宰として、理工系学生の国際化に取り組み。主にドイツの研究者と共同研究を推進し実績をあげている。



編集後記